



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4503 号 2018.7.22 発行

### 相模原殺傷被告の手記を掲載、書籍発売 静岡県内、続く批判

静岡新聞 2018年7月22日

相模原市の知的障害者施設で入所者19人が殺害され、職員を含む26人が重軽傷を負った事件で殺人などの罪で起訴された元施設職員被告の手紙などの手記を掲載した書籍が21日、出版された。タイトルは「開けられたパンドラの箱」。静岡県内の障害者の親らからも出版に反対の声が上がる中、東京都の創出版が「事件を風化させてはいけない」（篠田博之編集長）と発売に踏み切り、県内の書店にも並んだ。

書籍は3部構成で254ページ。初版は約4千部。第1部には97ページにわたり被告の獄中ノートや手紙、漫画が掲載された。「意思疎通の取れない人間を安楽死させるべき」など被告の主張を紹介。被告の考えを否定する出版社の見解も添えている。第2部、第3部には被害者家族（74）＝神奈川県座間市＝の意見や精神科医の分析が記された。



書籍を巡っては県立大短期大学の佐々木隆志教授や静岡市静岡手をつなぐ育成会の中村章次会長らが「被告の主張が正当化され、拡散する恐れがある」として6月に同社に出版停止を求める約2千人分の署名を提出したほか、神奈川県議会でも出版自粛を求める意見が相次いだ。

被告の手記が掲載された書籍が並ぶ店内＝21日午後、静岡市葵区

佐々木教授は「十分な配慮がされたとは言いがたい。特に30ページにわたって掲載された被告の漫画に何の意味があるのか。悔しく、怒りを覚える」と批判した。篠田編集長は「何度も読み返し、全体的に相当見直した。差別的な主張の部分も減らすなどして佐々木教授らの意見に配慮した」と説明した。

### 【相模原殺傷2年】植松聖被告、謝罪なく「人ではないから殺人ではない」 産経新聞との5回の接見で持論産

産経新聞 2018年7月21日

「知的障害者はいなくなるべきだ」。植松聖被告は、勾留先の横浜拘置支所（横浜市港南区）での産経新聞の接見取材に対し、一方的な主張を繰り返している。被告によると、凶行に及んだ契機は、園で入所者が床などにまき散らした汚物を処理しているときだったという。「彼らが人に迷惑をかける源だと気がついた」と話す。

接見を始める前の昨年7月に届いた手紙では、意思疎通ができないという意味で知的障害者を「心失者」と表現。ふりがなを「シンシツシャ」と振る。そして今年1月の手紙では「新年明けましておめでとうございます」とした上で「本当の日本」と題し、「いつまでも延命する日本、心失者の人権を主張する日本、全て人のせいにする日本」などとつづっている。

接見の最中、犯行当時の状況を尋ねると「寝ていた心失者たちに『おはようございます』

などと話しかけ、返事がなかった人は刺した」と明かした。準備が進む裁判については「殺したことは認めるが、彼らは人ではないので殺人ではないと訴えたい。みんな分かってくれるはずだ」と身勝手な主張を並べた。

これまでの5回の接見で、被害者らへの謝罪や犯行を後悔するような言葉は一切ない。

## 【相模原殺傷2年】明かせぬ実名、遺族のジレンマ 障害者への差別...消えぬ不安



産経新聞 2018年7月21日  
神奈川県警津久井署に入る植松聖容疑者を乗せた車両＝2016年7月27日午後、相模原市緑区（桐原正道撮影）※一部画像処理しています

相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で平成28年、入所者19人が刺殺されるなどした事件は26日で発生から2年になる。横浜地裁で昨年9月から争点を絞り込む公判前整理手続きに入っているが、殺人罪などで起訴された元職員の植松聖（さとし）被告（28）は「彼らは人ではない」などと犯行を正当化する主張を今も続けている。遺族らは日増しに募る喪失感にうちひしがれ、差別への懸念からいまだ実名を明かせないジレンマも抱えている。

「1日も娘のことを忘れたことはない」

当時26歳だった長女を失った50代の女性はそう語る。事件後に飾り始めた長女の写真は1枚、また1枚と増え、今では家のどこにいても長女の笑顔に触れられるようになった。

ぱっちりとした目が特徴的で、近所から「かわいいね」と言われることも多かった自慢の娘。1人で食事をしていると、時折「ソフトクリームが食べたいな」とせがむ声が聞こえてくるような気がする。「今も近くにいるんだね」。一瞬喜びも感じるが、娘がいない現実を引き戻されると、深い喪失感に襲われる。

事件をめぐっては、殺害された入所者19人の大半の実名が明らかになっていない。「知的障害者が家族であることが知られると、生活に影響が出かねない」などとして、遺族側が公表を認めていないためだ。

ただ、少しずつ前に進もうとしている遺族もいる。

兄を失った50代の女性は今年2月、事件を考えるシンポジウムに初めて参加した。事件後、サイレンの音も怖くなっていたという女性だが、再会した同じ被害者家族と話すうちに、心が少し軽くなった。

兄は言葉での意思疎通が困難で、写真や絵を通じて園の職員らとコミュニケーションを取っていた。物静かだが、他の入所者が転倒したりすると、必死に職員らに知らせたりする優しい心の持ち主だった。

そんな兄の存在を消したいわけではない。でも実名を明かすのは怖い。揺れる思いは今も変わらないが、少しずつでも事件に向き合おうとしている。「思いを共有できる人に会えてよかった」。シンポジウム後、そう話す女性の表情はいくぶん明るくなった。

先月、勾留中の植松聖被告と面会したある遺族の男性は、被告について「事件当時と何も変わっていなかった」と振り返る。植松被告は、多くの遺族らが実名を公表せず、口を閉ざしている現状について「結局は障害者が身内にいることを隠したいんだ」と本紙記者に語っていた。

「長い時間、社会からの差別を経験してきた。まだ心の準備ができていないだけだ」。女性は語気を強めた。（河野光汰）

### 【用語解説】相模原障害者施設殺傷事件

28年7月26日未明、相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」（建て替え工事中）で、元職員の植松聖被告が複数の刃物で就寝中の入所者らを襲撃。入所者19人が刺殺され、職員を含む26人が重軽傷を負った。犠牲者19人は単独犯としては戦後最悪レベル。

横浜地検は同年9月から鑑定留置を実施。人格障害の一つである「自己愛性パーソナリティ障害」などと診断された。その後、完全責任能力があったと判断され、29年2月に殺人など6つの罪で起訴された。

### 発達障害の子どもと家族、災害時にどう支える

朝日新聞 2018年7月21日

西日本豪雨の被災地で過ごす発達障害のある子どもや、その家族をどう支えればいいのか。見た目では障害がわかりづらいこともあり、周囲の理解が必要だ。

「発達障害のある人は見通しが立たないことや、いつもと違うことが苦手。災害時は不安がより強まりやすい」

こう話すのは、岡山市発達障害者支援センターひかりんくのスタッフ。避難所では仕切られた居場所を確保するなど、日常生活に近づける工夫が大切だという。

コミュニケーションが苦手、困っているのに伝えられないこともある。感覚が過敏で、暑さを人より感じている可能性もある。「『周りの子どもも我慢しているから我慢しなさい』

ではなく、親や周りの大人は『何がしんどいか』を丁寧に聞いてあげて」（ひかりんくス

## 災害時の発達障害児・者支援について

被災地における、発達障害のある人やご家族の生活には、発達障害を知らない人には理解しにくいさまざまな困難があります。そんなとき、発達障害児・者への対応について少しでも理解して対応できると、本人も周囲のみんなも助かります。

### 対応のコツ

★発達障害のある人は、見た目では障害があるようには見えないことがあります。対応にはコツが必要です。コツの探し方：家族など本人の状態をよくわかっている人にかかり方を確認しましょう。

### こんな場合は…

■変化が苦手な場合が多いので、不安から奇妙な行動をしたり、動きかけに強い抵抗を示すことがあります。

■感覚刺激過敏：周囲が想像する以上に過敏なため、大勢の人がいる環境が苦痛で避難所の中に入れないことがあります。鈍感：治療が必要なのに平気な顔をしていることもあります。

■話しこぼしを聞き取るのが苦手だったり、困っていることを伝えられないことがあります。

■見通しの立たないことに強い不安を示します。学校や職場などの休み、停電、テレビ番組の変更などで不安になります。

■危険な行為がわからないため、施設のゆるいところなど危ない場所に行ってしまうたり、医療機器を触ってしまうことがあります。

### このように対応…

●してほしいことを具体的に、おだやかな声で指示します。  
例：○：「このシート（場所）に座ってください。」  
×：「そっちはダメ」  
●スケジュールや場所の変更等を具体的に伝えます。  
例1：○：「OO（予定）はありません。口口をします。」  
×：強引に手を引く  
例2：○：「OOは口口（場所）にあります。」  
×：「ここにはない」とだけ言う

●居場所を配慮します。  
例：部屋の角や別室、テントの使用など、個別空間の保証  
●健康状態を工夫してチェックします。  
例：ケガの有無など、本人の報告や訴えだけでなく、身体状況をひと通りよく見る。

●説明の仕方を工夫します。  
例：文字や紙、実物を使って目に見える形で説明する  
一斉放送だけでなく、個別に声かける  
簡潔に具体的に話しかける  
例：○：お母さんはどこですか？  
×：何が困っていませんか？

●安定したリズムで日常が送れるように、当面の目標の提案や、空いた時間を過ごす活動の提示が必要です。  
例：○：筆記具と紙、パズル、図鑑、ゲーム等の提供  
○：チラシ配りや清掃などの簡単な作業の割り当て  
×：何もしないで待たせる

●ほかに興味のある遊びや手伝いに誘う。  
●行ってはいけないところや触ってはいけない物がはっきりとわかるように「×」などの印をあらかじめ付ける。

## ご家族のかたへ

★子どもは、他人に起こったことでも自分のことのように感じる場合があります。さらに発達障害がある場合には、想定以上の恐怖体験になってしまうこともあります。子どもには災害のテレビ映像などを見せずに、別のことで時間を過ごすような工夫をすることが必要です。

★災害を経験した子どもは、災害前には自分ひとりでできていたこともしなくなったり、興奮しすぎてしまうことがあります。発達障害がある場合でも、基本的には子どもの甘えを受け入れてあげるのがよいでしょう。叱ったりせず、おだやかな言葉かけをしながら、少しずつ子どもが安心できるようにすることが大切です。



スタッフ)

発達障害情報・支援センターはHP (<http://www.rehab.go.jp/ddis/>) は、リーフレット「災害時の発達障害児・者支援について」を公表している。「スケジュールや場所の変更などを具体的に伝える」「一斉放送だけでなく、個別に声かけ」など、避難所などでの対応のコツが紹介されている。

リーフレットでは、「配給や買い物に行けずに困っている」「水や食料の配給時に、騒いでしまう子どもがいた場合」など、具体的なケースを例示して、まわりの人の家族へのサポートを呼びかけている。

ひか☆りんくによると、環境が変化して不安定になっている子どもがその場の状況を考えず不満を口にしてしまうなどし、「親のしつけが悪い」と誤解されてしまうこともある。子どもの安心のために心を砕いている家族のことも周囲は理解し、安心できるような声かけをしてほしいという。スタッフは「同じ状況でも困っていることは一人ひとり違う。その人に合った支援をするためにも、気軽に相談してほしい」と話す。

発達障害情報・支援センターのリーフレットには各地の相談窓口も載っている。

広島県発達障害者支援センター＝082・490・3455

広島市発達障害者支援センター＝082・568・7328

おかやま発達障害者支援センター＝086・275・9277

おかやま発達障害者支援センター県北支所＝0868・22・1717

岡山市発達障害者支援センターひか☆りんく＝086・236・0051

愛媛県発達障害者支援センター「あい ゆう」＝089・955・5532 (田中陽子)

**知的障害のある6人が書道展 前衛的な手法の書も** 神戸新聞 2018年7月22日  
作品を出品した橋本直樹さん(左)と山中柚子さん＝ギャラリー一驟



兵庫県三木市志染町吉田の橋本直樹(雅号・直染)さん(27)ら知的障害のある6人が、同市与呂木のギャラリー一驟で書道展「橋本直樹と仲間たち」を開いている。伸びやかな筆の運びで表現した約70点を展示する。29日まで(23、24日休み)。

障害の有無を問わず、書を楽しむ市内の催し「きらきら書道」に参加するメンバーが出品。ダウン症の橋本さんは小学1年の頃から筆を持ち、市内の書家藤原常貴さんの指導を受けながら、市内外で作品を披露している。

半紙の上に墨を含ませた筆を滑らせるだけでなく、黒い布に銀色のアクリル絵の具で「流星」としたためたり、金属のブラシを使って金属板に書いたり、前衛的な手法でも書を楽しむ、訪れた人たちを魅了している。

午前10時～午後5時(29日は同3時まで)。入場無料。ギャラリー一驟TEL0794・83・5567(大橋凜太郎)

**「松茂係長」模したパン人気 障害者ら働く工房が製造 徳島・松茂町**  
**「哀愁・かわいさ表現」**

徳島新聞 2018年7月22日  
知的障害者が働く松茂町のパン工房「ぱんぱかぱん」が商品化した、町のマスコットキャラクター「松茂係長」を模したなんと金時入りのあんパンが人気を集めている。一日に作る数は販売開始時の4～5倍に増え、障害者らの意欲向上につながっている。

パンは、月のウサギをモチーフにした松茂係長の体つきを表現して丸く焼き上げ、目鼻や胸元にあるトレードマーク「松」の字をチョコレートペンで描いた。パンの中には、サ

ツマイモを練ったあんこ、角切りしたなると金時を詰めている。

松茂係長そっくりのパンを作ったスタッフ＝松茂町のパン工房「ぱんぱかぱん」

工房を運営する指定障害福祉サービス事業所「なごみ」の職員が考案し、2月に販売を開始。当初は一日5個程度を作っていたところ、タウン誌で紹介されるなどして購入客が増えた。6月からは一日20～25個製造しており、店の人気ナンバーワン商品になった。

パン作りを担当する富士村志穂さん（26）＝徳島市北沖洲1＝は「体型がおじさんぽくて、哀愁とかわいさを表現できた」。橋本千慧さん（31）＝板野町大寺＝は「多くの人に食べてもらえるよう頑張りたい」と話している。

1個110円。障害者支援施設・吉野川育成園（同町笹木野）の敷地内の店で、土日祝日を除く午前11時～午後4時に販売している。



## 過酷な「特殊清掃」 厳粛な現場 見知らぬ誰かの生きた証し

毎日新聞 2018年7月22日

特殊清掃の現場ではマスクとゴム手袋が必需品だ。時には2枚重ね、3枚重ねにする＝千葉県習志野市で



ひとり暮らしの人が増えていることを、私たちは知っている。その人たちが突然亡くなることもあることも、想像できる。だけどその後、その家や部屋を専門に掃除して片づける人については、あまり知られていない。発見が遅れば、遺体は腐敗する。今回は、過酷で厳粛な「特殊清掃」の現場から報告したい。

台所を過ぎ、1DKの6畳間に入ってまず目に飛び込んできたのは、おびただしい数の調味料だった。しょうゆ、ソース、ポン酢、ペッパーソース、それからチューブのからし、生ワサビ、生ショウガ。さらにコショウ、カレーパウダー、パルメザンチーズ、ふりかけ、シーザーサラダドレッシング。あとは、よく見る塩のビン。窓に向かって右手の、二つの低い台の上にぎっしり並んでいた。ためしに左手の冷蔵庫の中ものぞく。うどんや納豆の後ろ、ここにもケチャップや香辛料があった。

遺品整理業「アイシン」（千葉市若葉区）専務の笠原勝成さん（49）と、特殊清掃の現場に入った。自宅で人が亡くなり、発見が遅れると遺体の腐敗が進み、猛烈なおいがする。それを徹底的に消臭して片づける。この日はゴールデンウィークの半ばだった。千葉県習志野市ののどかな住宅地のアパートで3週間前、ひとり暮らしの男性が亡くなった。3人の作業員で特殊な清掃をしていることなど、周囲の誰も知らない。

作業の前に、火をつけた線香と水が置かれて「祭壇」になる。般若心経も上げられた＝千葉県習志野市で



調味料容器の山の横にあった市役所からの通知書で「昭和23（1948）年生まれ」だったことを知る。団塊世代として戦後を生きた＜彼＞は、どんな食生活をしていただろう。炊飯器はあるから米は炊いていたか。あるいは冷蔵庫の麺類をゆで、その日の気分で調味料を振りかけたか。ひとり暮らしの食卓の、味の濃い丼物を想像した。

マスク越しに笠原さんが言う。「事前に数日、脱臭機を置き、消臭剤をまいたので、この現場、においは大丈夫です。だから窓を開けます」。窓が全開にされたとたん、風が入ってくる。よどんだ部屋の空気は、一直線に玄関の先まで運ばれていった。

笠原さんは、住宅メンテナンスの会社に就職したり運送業を自分でやったりしてきた。

その過程で自宅で亡くなる人が増えていることに気づき、遺品整理業をやろうと思い立つ。会社設立は3年前。特殊清掃はやりたくなかったが、依頼が相次いだ。かれこれ100件を超える現場に入った。初めは仕事のあとは食欲がなくなったが、今は食事は普通にできる。でも、決して慣れたわけではない。

特殊清掃を業界用語で「マル死」と呼ぶらしい。死の生々しい現場。腐敗が進み、体液が、寝ていた布団といわず床板といわず、下の階の部屋まで垂れて落ちていることもある。その体液をぬぐい取る作業。感染症の恐れがあるので雨具を着て、ゴム手袋、ゴーグルをつけ、マスクは二重にすることもある。まずは殺菌剤を徹底的にまき、そのあと消臭作業。それを数日続けてからゴミの仕分けに入る。

若い人や内臓疾患のあった人の現場のにおいは「キツイ」という。反対に高齢者は、さほどしない。だから有名大学の男性名誉教授の現場は楽だった。床が見えないほどの本に囲まれた中で倒れていた。エアコンがついたままだったのが幸いした。ただ、本の処分はたいへん。段ボールが100箱必要だった……。

以前聞いた、そんな話を思い出しながら、私は習志野市の現場の部屋の部屋をあちこちながめた。DVDが積まれた棚。アクションものが好きだったようだ。ミステリーの本が積んであった。特殊清掃の現場は、その人の人生最後の日々を想像させる。薬があれば抱えていた病気を。つえがあれば足が不自由だったとか。〈彼〉は万年床だった。あれっ？ 布団を入れた大きなビニールの横、床に黒いシミが。小バエが1匹、ぷーんと飛んだ。顔を近づけてみた瞬間、そのにおいが鼻を突いた。ヤバい、逃げろ！ 動物としての私の本性が警告を発する。そんな苛烈なおいだった。

国立社会保障・人口問題研究所が1月に公表した推計によれば、2040年には、ひとり暮らし世帯が全世帯の39・3%になる。特に高齢男性の単身化が顕著で、15年の1・7倍になるという。特殊清掃のニーズは、今後ますます高まっていく。

人が亡くなった場所の清掃を繰り返しながら、「死」に対する恐怖はなくなった、と笠原さんは言う。今では「自分もいつか死ぬ」と受け入れられるようになった。ただ、できることなら、自分は病院や施設がいいと思う。発見が遅れると清掃に手間がかかることを知っているから。同時に、この仕事の厳粛さが身に染みてきた。

「清掃に入るときには、もうその方の葬儀も火葬も済んだ後です。だとすれば、清掃が終われば、その人の生きてきた証しはなくなります。最後の節目に立ち会っているという感覚でやらせてもらってます」

実はこの日、作業に入る前、笠原さんは玄関に入ったすぐのスペースにあるカラーボックスの上に、ペットボトルの水と、台所にあったマグカップに線香を立てて置いた。そうして、そんきよの姿勢で覚えたての般若心経（はんにやしんぎょう）を唱えた。低く厚みのある声が響く。自分なりの死への向き合い方であり、見知らぬ人たちへの供養でもある。作業が終われば、笠原さんは、同じ千葉県内に住む〈彼〉の長男に会いに行く。現場には立ち会ってはもらえなかったが、保証人として、かかった費用を出してもらおう交渉をしに。現場の様子をきちんと伝えるつもりだ。【滝野隆浩】

## 補助金3千万円を不正受給 市議が元理事の社会福祉法人 井石栄司、村上英樹

朝日新聞 2018年7月22日

児童養護施設などを運営する北九州市小倉南区の社会福祉法人「双葉会」が、市の補助金や国の負担金を不正受給していたことが、市への取材でわかった。少なくとも3240万円とみられ、市は返還を求める方針。受給期間の大半で、同市の西田一市議＝自民、3期目＝が会の理事を務めていた。

市によると、不正があったのは児童養護施設が対象の二つの事業。

このうち処遇改善事業では、発達障害児らの指導補助員を置いた施設に市が補助する。会は2015、16年度、勤務実態のない男性1人を指導補助員として申請。不正受給額



は計440万円とみられる。

分園型自活訓練事業では、施設利用者が社会生活になじめるよう、近くのアパートなどで集団生活する経費を市と国が支援。会は、6人程度とされる人数や退所前1年程度とされる期間などの要件を満たしていなかった。職員への聞き取りから、不正受給額は11～16年度だけで少なくとも2800万円とみられる。市はそれ以前にも不正受給があった可能性があるとして、会に資料の提出を求めている。

## 生活関わる法案見送り 国会きょう閉幕 与党「カジノ」「働き方」は強行

東京新聞 2018年7月22日

今国会が二十二日に閉幕する。森友、加計問題など安倍政権の不祥事が相次ぎ、与野党が激しく対立したあおりで、審議時間が限られ、国民生活に影響する法案成立が見送られた。与党は重要視するカジノを中核とする統合型リゾート施設（IR）整備法や働き方関連法などの採決を強行する一方、野党が提出した原発ゼロ基本法案などは一度も審議しなかった。（木谷孝洋）

政府提出法案で成立しなかったのは、成年後見制度適正化法案や洋上風力発電促進法案など五本。政府提出法案の成立率は92・3%だった。議員立法では超党派で検討していたチケット高額転売禁止法案が先送りされた。

成年後見制度適正化法案は、知的障害や認知症などで制度を利用した人が、一律に公務員や教員、保育士などになれない欠格条項を廃止。個別の状況ごとに審査し、不当差別を解消するのが目的だ。洋上風力発電促進法案は、洋上風力発電の普及を広げるのが狙い。いずれも内閣委員会で審議される予定だった。

政府・与党は終盤国会でカジノ法の成立を最優先させた。審議は内閣委員会で行われるため、成年後見制度適正化法案などを審議する時間はなく、置き去りにされた。野党はカジノ法の成立を急ぐ必要はないと主張した。

### 今国会で成立しなかった主な法案

	法案名	内容
政府提出	成年後見制度適正化法案	国家公務員などが被成年後見人になると自動的に失職したり、資格を失ったりする「欠格条項」を廃止
	洋上風力発電促進法案	政府が「促進区域」を指定し、洋上風力発電を行う事業者を公募する新制度導入
	水道法改正案	市町村単位の水道事業の広域化を推進。施設運営権を民間に託せる仕組みも創設
	国家戦略特区法改正案	地域を指定し、企業が自動運転やドローンの実証実験をやりやすくする
	サイバーセキュリティ基本法改正案	協議会を創設し、国や自治体、セキュリティー事業者などがサイバー攻撃などの情報を共有
議員提出	児童福祉法・児童虐待防止法改正案(野党)	児童福祉司を2019年度末までに約4700人に増員。子どもが転居した場合、必要な情報を転居先の児童相談所に通知
	原発ゼロ基本法案(野党)	全原発を停止し、法施行後5年以内に廃炉を決める
	「共謀罪」廃止法案(野党)	「共謀罪」(テロ等準備罪)を廃止する
	チケット高額転売禁止法案(超党派が検討、未提出)	東京五輪・パラリンピックを見据え、コンサートやイベントのチケットの高額転売を規制

必要はないと主張した。

東京五輪・パラリンピックを見据え、コンサートやイベントのチケットの高額転売を禁止する法案は、超党派の議員連盟が成立を目指した。与野党が国会に共同提出するため、本来なら成立するはずだが、国会運営を巡る対立が高まったため、与野党の協議が難しくなり、提出を断念した。

野党は、東京都目黒区で船戸結愛（ゆあ）ちゃん（5つ）が虐待死した事件を受け、児童福祉司の増員などを盛り込んだ児童虐待防止法などの改正案を提出したが、一度も審議されなかった。立憲民主党などが中心となって提出した原発ゼロ基本法案や犯罪を計画段階で処罰する「共謀罪」を廃止する法案も、委員会で扱われなかった。

国民民主党の泉健太国対委員長は、二十日の記者会見で「与党が国会改革を言うなら、野党提出法案をしっかりと扱うことが最低限必要だ。虐待死事件を受け児童相談所の体制を強化する法案は厚生労働委員会で時間があつたのに、与党が審議拒否した」と批判した。

### <ほっとタイム>悩み、本音で語りたい

河北新報 2018年7月22日



ボランティアと一緒にかき氷を作る大平さん(右)

◎高校生が手作り交流会

盛岡市中ノ橋通1丁目にある通所介護施設「フキデチョウ文庫」で2カ月に1度、障害者や不登校児の交流会が開かれている。盛岡中央高通信制課程1年大平諒さん(15)＝盛岡市＝が呼び掛け人だ。

小学6年の時に脳腫瘍が見つかり、放射線や抗がん剤の治療で半年入院。半身まひや脳の障害が残り、中学校で思うような学校生活を送れなかった。

「頑張ろう」と励ます先生の指導はありがたかったが、体がついていかなかった。もどかしい思いを共有できる友達も周囲にいなかった。

悩みを抱える人が集う場をつくりたい。開催日やイベントの内容を手書きの新聞にして告知した。

6月30日はかき氷作り。乳児から高齢者まで20人以上が集まり、イチゴやあずき、チョコレートと思ひ思ひのかき氷を食べ、談笑や読書で時間を過ごした。

「世代を超えて集まり、心に抱える重荷を本音で語れる場所にしたい」。大平さんは目を輝かせた。(盛岡総局・千葉淳一)

### 【産経抄】7月22日

産経新聞 2018年7月22日

天は人に2つの耳と1つの口を与えた。「だから話すことの2倍だけ聞かねばならない」と、古代ギリシャの言葉にある。巷間(こうかん)にあふれる格言や名言も、「話す」ことより「聞く」ことに重きを置いたものが多い。▼口は自分の声を外側に押し出すもの、耳は他人の声を内側に受け入れるもの。耳の使い方はそれゆえ難しい。利害の反する2人を前に、片方の耳を閉じて一方の言い分のみを聞き入れたばかりに、取り返しのつかない結果を招く。そんな故実は枚挙にいとまがない。▼東京で5歳の女兒が親の虐待を受けて亡くなった事件は、耳の使い方を誤った痛恨の事例だった。児童相談所の職員は自宅を訪れながら、立ち入りを拒む親の言い分をのんで引き下がっている。暖房もない部屋で、寒さに震え続けた女兒の声を聞くことはなかった。▼「ゆるしてください おねがいします」。覚えてたの平仮名でつぶった女兒は、許しを請いながら短い命を閉じた。どれほど酷薄な親であれ、それでもすがるしかないのが虐待を受ける子供の現実だろう。親が閉ざした厚い扉は、周りの大人がこじ開けるほかない。▼この事件を教訓に、政府は児相の児童福祉司を今後4年間で2千人増やすという。安全確認のための立ち入り調査もルール化されたが、頭数の多寡だけで片付けてはなるまい。幼い命を救うという使命感を、新たに加わる職員一人一人が共有しなければ意味はない。▼谷川俊太郎さんの詩『みみをすます』の一節にある。(ひとつのおとに／ひとつのこえに／みみをすますことが／もうひとつのおとに／もうひとつのこえに／みみをふさぐことに／ならないように)。今もどこかで幼い命が泣いていないか。耳を澄ますべき声は扉の向こうにある。



月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も  
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行